

体育・保健体育、健康、安全 WG における検討事項（案）

1. 体育・保健体育を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 体育・保健体育を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・ 三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・ 幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた体育・保健体育において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・ 体育・保健体育において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
 - ・ オリンピック・パラリンピック大会を契機として育成すべき資質・能力

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき体育・保健体育の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

5. 健康・安全における資質・能力等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（教育課程企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

健やかな体の育成に関する教育のイメージ（たたき台）

体育科・保健体育科

平成27年12月10日
 教育課程部 安全WG
 体育・保健体育、健康、安全資料2

発達段階



卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにする

【高等学校】

- 生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質・能力を養うとともに、健康な社会づくりに参画する態度を育てる。
- 「する、みる、支える」などの多様なスポーツとの関わり方に関する指導を充実する。
- 体育で学習したことを実生活や実社会で生かし、運動の習慣化につなげる指導を充実する。
- 中学校からの接続を踏まえ、体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する。
- 主体的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをさらに充実する。
- 健康課題や情報を批判的に捉え、課題解決を目指して論理的に考え、意志決定・行動選択する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のための健康な社会づくりを目指して、健康的な環境づくりに参画する活動の充実。



多くの領域の学習を経験する

【中学校】

- 生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を養うとともに、健康の保持増進のための実践力を育成する。
- 小学校からの接続を踏まえ、競争や達成、課題解決、創造、協力などのスポーツを通じた多様な楽しさを味わえるよう、全ての領域の体験のさせ方を充実する。
- 体力や技能の違いを超えてスポーツを楽しむよう、男女共習やアダプテッド・スポーツの体験の機会を充実する
- 3年次では、自主的に運動に取り組めるよう、協同的な学びや課題解決的な学びをより充実する。
- 健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために自己判断や意志決定する力を育てる。
- 自他の健康の保持増進や回復のためにコミュニケーションを図ったり、主張したりする活動の充実。



各種の運動の基礎を培う

【小学校】

- 基礎的な身体能力や知識を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
- 運動の楽しさや喜びを味わい、児童の運動への関心や意欲を高めるとともに、仲間と仲よく運動したり、運動の課題を主体的に解決したりする力を養うなど、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる。
- 身近な健康課題に関心を持ち、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決するとともに、自己の健康に関する取組を肯定的に捉える態度を育てる。

【幼児教育】

- （教育課程部幼児教育部において、本部会での議論を踏まえ、幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿の明確化について審議）
- 体を動かす様々な活動に目標を持って立ち向かったり、困難にまずいても気持ちを切り替えて自分なりに乗り越えようとしたりして、根気強くやり抜くことで活動意欲を満足させ、自ら体を動かす。
 - 適切な活動を選び、体を動かす気持ちよさや自ら体を動かそうとする意欲を持ち、いろいろな場面に応じて体の諸部位を十分に動かして進んで運動する。
 - 健康な生活に関わる人々に接したり、社会の情報を取り入れたりなどして、自分の健康に対する関心を高め、体を大切にしている活動を進んで行う気持ちを持ち、健康な生活リズムを身に付ける。

個人及び社会生活の健康についてより総合的に理解する

個人の健康についてより科学的に理解する

身近な生活の健康について理解する

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科） Ver.5

平成28年3月8日
 体育・保健体育、健康、安全WG
 資料4

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
小学校 体育 運動領域	各種の運動が有する特性や魅力に応じた 技能や知識 ・ 各種の運動を行うための技能 ・ 各種の運動の行い方についての基本的 な知識	自己の能力に適した課題をもち、活動を選 んだり工夫したりする思考力・判断力・表 現力等 ・ 自己の能力に適した課題に気付く力 ・ 自己の課題を解決するための活動を選ん だり、運動の行い方を工夫したりする力 ・ 思考し判断したことを、言葉や動作等で 他者に伝える力	運動の楽しさや喜びを味わい、明るく 楽しい生活を営むための態度 ・ 進んで学習活動に取り組む ・ 約束を守り、公正に行動する ・ 友達と協力して活動する ・ 自分の役割を果たそうとする ・ 安全に気を配る
保健領域	身近な生活における健康・安全について の基礎的な知識や技能 ・ 健康な生活、発育・発達、心の健康、 けがの防止、病気の予防に関する基礎 的な知識 ・ 不安や悩みの対処やけがの手当に関す る基礎的な技能	身近な健康課題に気付き、健康を保持増進 するために情報を活用し、課題解決する力 ・ 身近な健康課題に気付く力 ・ 健康課題に関する情報を集める力 ・ 健康課題の解決方法を予想し考える力 ・ 学んだことを自己の生活に生かす力 ・ 学んだことや健康に関する自分の考えを 伝える力	健康の大切さを認識し、健康で楽しく 明るい生活を営む態度 ・ 自己の健康に関心をもつ ・ 自己の健康の保持増進のために協力 して活動する ・ 自他の心身の発育・発達などを肯定 的に捉える

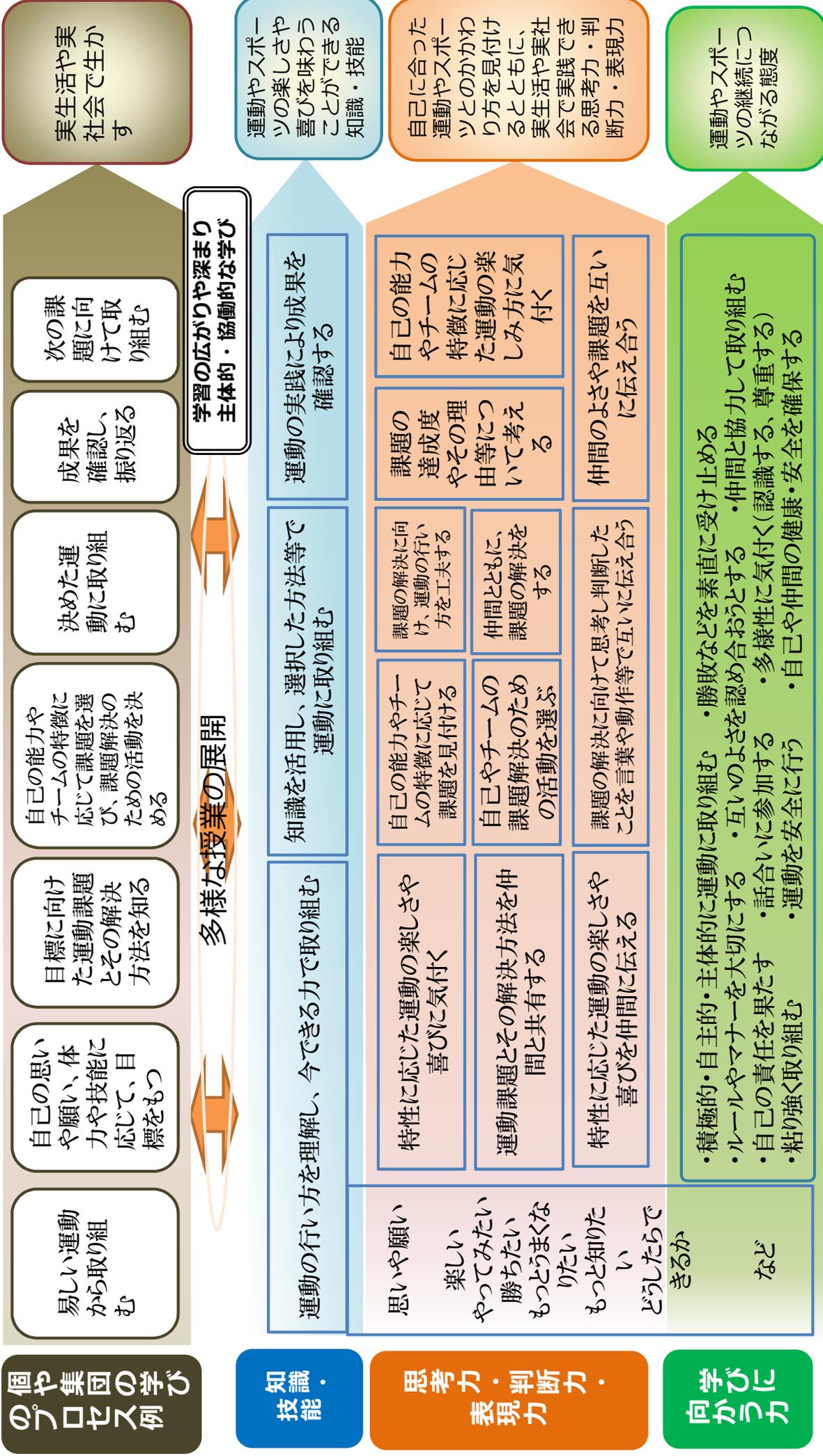
【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科） Ver.5

<p>中学校 保健体育</p>	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)</p>
<p>体育分野</p>	<p>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方の知識 ・運動の特性や成り立ちの知識 ・体力の要素や高め方の知識 ・運動観察の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など <p>スポーツに関する科学的知識や文 化的意義等の概要</p> <p>小学校段階の学習を踏まえ、各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする 	<p>自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付ける力 ・運動実践の場面で、自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ力 ・運動実践の場面で、健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な活動を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を見付ける力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付ける力 ・運動を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える力 など 	<p>生涯にわたって運動やスポーツに親しむとともに、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的に学習活動に取り組み ・運動における競争や協同の場面を通して、多様性を認識し、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
<p>保健分野</p>	<p>個人生活における健康・安全についての科学的な知識や技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な健康課題を踏まえた心身の機能の発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ストレス対処、応急手当に関する基礎的な技能 	<p>健康課題を把握し、適切な情報を選択、活用し、課題解決のために適切な意思決定をする力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康課題を発見する力 ・健康情報を収集し、批判的に吟味する力 ・健康情報や知識を活用して多様な解決方法を考える力 ・多様な解決方法の中から、適切な方法を選択・決定し、自己の生活に生かす力 ・自己の健康の考えや解決策を対象に応じて表現する力 	<p>健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かな生活を営む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の健康に関心をもち ・自己の健康に関する取組のよさを認める ・自己の健康の保持増進や回復のために協力して活動する ・自己の健康の保持増進に主体的に取り組む

【たたき台】資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して育成すべき資質・能力の整理イメージ（体育科・保健体育科） Ver.5

高等学校 保健体育	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの) (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)
科目体育	運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識 ・技術の名称や行い方の知識 ・体力の高め方の知識 ・課題解決の方法の知識 ・伝統的な考え方の知識 など ・競技会、発表会の仕方や審判の方等の知識 スポーツに関する科学的知識や文化的意義等 各種の運動が有する特性や魅力に応じた技能 ・知識を踏まえて、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力 ・自己や仲間の挑戦する運動課題を設定する力 ・技術的な課題や有効な練習方法について指摘する力 ・運動実践の場面で、課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の課題を見直す力 ・運動実践の場面で、自己や仲間の危険を予測し回避するための活動の仕方を選ぶ力 ・状況に応じた自己や仲間の役割を設定する力 ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付ける力 ・運動やスポーツを生涯にわたって楽しむための自己に適したかわり方を見付ける力 ・思考・判断したことを、根拠を示したり、他者に配慮したりして相手に伝える力 など	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・運動の楽しさや喜びを深く味わい、主体的に取り組む態度 ・運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正に取り組む、仲間と主体的にかかわり協力する、役割に責任をもって取り組む、意思決定などに参画するなどの意欲を持つ ・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする ・運動実践の場面で、健康・安全を確保する など
科目保健	個人及び社会生活における健康・安全についての総合的な知識や技能 ・現代社会に生じた健康課題の解決に役立つ知識、健康な生活と疾病の予防に関する知識 ・ライフステージにおける健康を踏まえた生涯を通じる健康の知識 ・社会生活と健康に関する知識 ・社会資源の活用、応急手当に関する技能	健康課題の解決を目指して、情報を批判的に捉えたり、論理的に考えたりして、適切に意思決定・行動選択する力 ・社会生活に関わる健康課題を発見する力 ・社会生活に関わる健康情報を収集、分析する力 ・社会背景や置かれている状況に応じて解決方法を考える力 ・解決方法を活用し、健康な社会づくりを目指して適切に意思決定・行動選択する力 ・健康な社会づくりに必要な知識や技能、健康の考えや解決策を社会へ伝える力	健康の保持増進のための実践力を育成し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度 ・社会生活に関わる健康づくりに関心をもつ ・社会生活において健康・安全を優先する ・健康の保持増進や回復のための社会づくりに参画する など

見方・考え方：運動の特性や体力の要素を捉え、運動・スポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら、運動・スポーツとの豊かな関わり方について考察すること

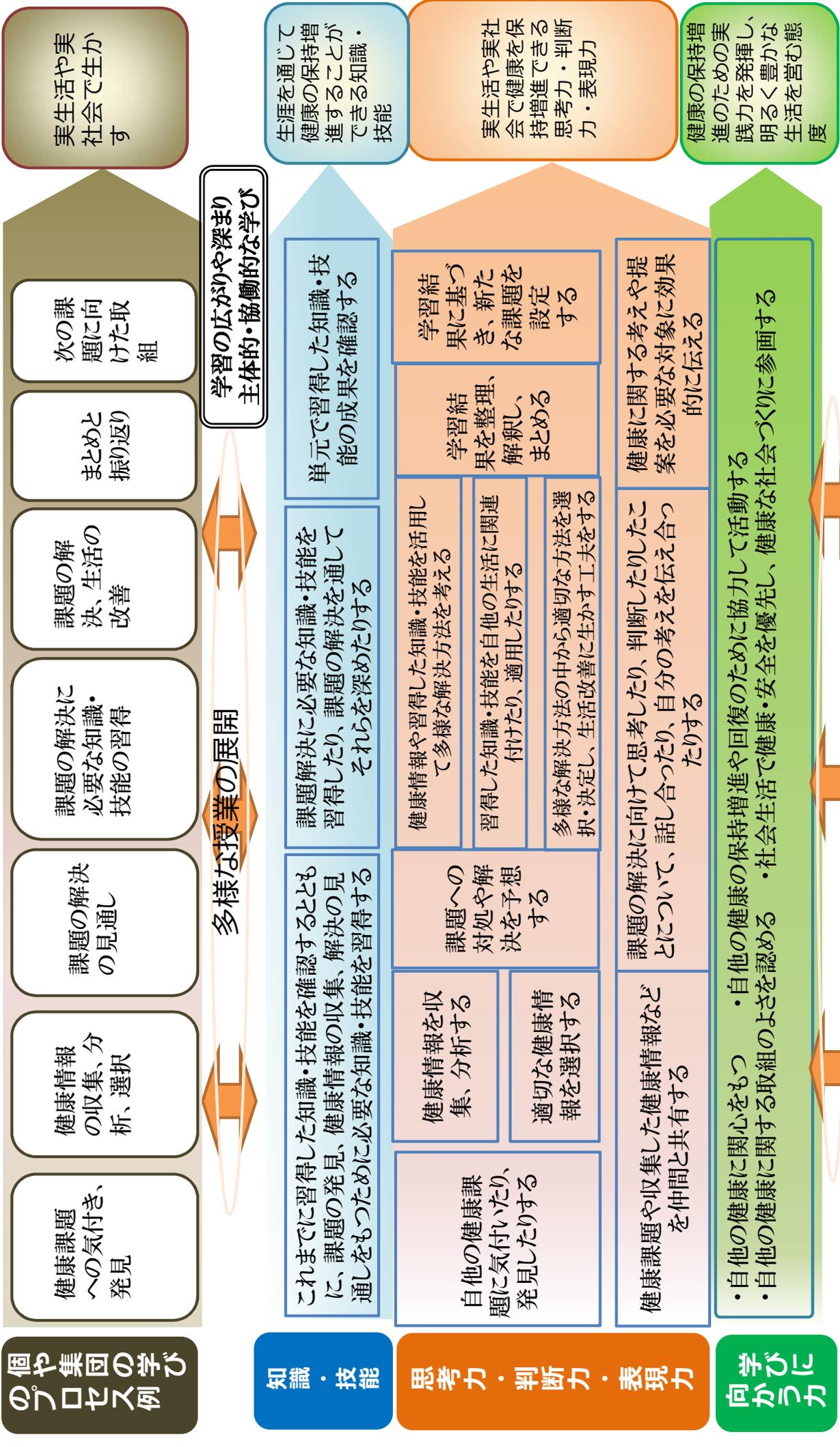


指導上配慮が必要な内容や個々の学びのプロセスに対応した個別指導

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、これに限定されるものではない。また、必ずしも順序性を示したものでなく、一方向の流れではない。

体育科・保健体育科における課題発見・解決の学びのプロセスのイメージ（保健）案

健康的な見方・考え方：健康や安全の視点から情報を捉え、健康の保持増進と回復を目指して疾病等のリスクを減らしたり、自分に合った対処法を見付けたり、生活の質を高めたりするために考察すること



指導上配慮が必要な内容や個々の学びのプロセスに対応した個別指導

※課題発見・解決の学びのプロセスは例示であり、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では学びのプロセスの一部を扱うこともある。

基本的な 考え方が

- ・特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- ・子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
- ・具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特異性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い 学び

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- ・運動やスポーツの楽しさや喜びを見出すとともに、豊かなかわり方について考える。
- ・運動の行い方を理解し、自己の能力に応じた課題を見付ける。
- ・課題の解決に向けて、習得した知識を活用して運動の行い方を工夫し、運動に取り組む。
- ・ICTの活用等により、課題の到達度を確認し、必要な知識を収集するとともに実践する。
- ・自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付ける。
- ・知識と技能を関連付けて学習することにより、その重要性を認識し、理解を深める。

対話的な 学び

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- ・運動についての課題と、その解決方法を仲間と共有する。
- ・課題の解決に向けて、仲間の感情に配慮し、助け合ったり教え合ったりしながら運動に取り組む。
- ・仲間と認め合い、励まし合いながら運動に取り組む、運動の楽しさや喜びを味わう。
- ・言語活動の充実やICTの活用等を通して、仲間の学びを理解するとともに、運動についての自己の課題の解決に生かす。

主体的な 学び

見通しをもつて粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- ・運動の楽しさに気付き、自ら進んで運動に取り組む。
- ・自己の目標をもち、目標の達成に向けた課題の解決に向け、意欲的に取り組む。
- ・学習の見通しをもつとともに、自己の課題の解決に向けて粘り強く運動に取り組む。
- ・ICTの活用等により、学習を振り返り、課題の修正をしたり新たな課題を設定したりする。
- ・公正、協力、責任、参画、健康・安全の大切さや意義を理解し、運動の楽しさや喜びを味わう。

基本的な 考え方が

- 特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- 子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようにする。
- 具体的な学習プロセスは限りなく存在し得るものであり、教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特徴、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

深い学び

- 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、課題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現
- 健康に関する身近な生活やそれを取り巻く社会環境の状況から、健康課題に気付く。
 - ICTを活用し、健康に関する情報を収集、批判的に吟味し、健康課題の解決に役立つ情報を選択する。
 - 選択した健康情報や習得した知識や技能を活用して、疾病等のリスクを減らしたり、対処法を選択したり、生活の質を高めたりするなど健康課題の解決方法を考える。
 - 健康課題の解決方法を自他の間で比較したり、生活と関連付けたりし、適切な意思決定・行動選択に役立てる。

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

- 健康課題や健康情報を仲間と共有する。
- 健康課題の解決に向けて、仲間と教え合ったり相談し合ったりしながら多様な解決方法を考える。
- 健康課題に関する意見や提案を相互に理解し、相手の立場を考えて表現し、伝え合う。
- 健康課題に関する話し合いを通して、仲間の学びや取組に対するよさを認め、自他の健康の保持増進や回復に生かす。

主体的な 学びが

- 見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現
- 自他の健康や社会の健康課題に関心をもち、健康課題の解決に向けて意欲的に取り組む。
 - 学習の見通しをもつとともに、健康の大切さに気付き、健康課題の解決に向けて粘り強く取り組む。
 - 学習を振り返り、習得された健康に関する知識・技能や思考・判断した成果を確認する。

体育・保健体育の特質に根ざした見方・考え方のイメージ (案)

体育
保健体育

- 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ、楽しさや喜びを見出すとともに体力を高め、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全といった視点を踏まえながら、自己の適性等に応じて「する・みる・支える・知る」等のスポーツとの多様なかわり方について考察すること
- 健康や安全の視点から情報を捉え、健康の保持増進と回復を目指して疾病等のリスクを減らしたり、生活の質を高めたりすることについて考察すること

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける検討事項

【生活科について】

1. 「生活科」を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 育成すべき資質・能力の可視化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
 - ・ 生活科の内容の構成要素等（学年目標を構成する項目、内容構成の基本的な視点と具体的な視点、内容の構成要素と階層性、学習対象等）と、論点整理で示された育成すべき資質・能力の三つの柱との関係について
 - ・ 中学年以降の各教科等とのつながりについて
 - ・ 低学年における他教科等との関連について
2. 幼児教育との円滑な接続を図るスタートカリキュラムの中核となる教科としての位置付けについて
 - ・ カリキュラム・マネジメントの視点からスタートカリキュラムの在り方について
 - ・ 幼児教育との接続及び、他教科等との連携の在り方について
 - ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科において育成する資質・能力との関連性について

【総合的な学習の時間について】

1. 「総合的な学習の時間」を通じて育成すべき資質・能力の明確化について
 - ・ 各教科等の学習を踏まえた上で、総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じた育成すべき資質・能力について
 - ・ 発達の段階に応じて身に付けるべき学び方やものの考え方の明確化について
2. 教育課程全体における「総合的な学習の時間」の意義について
 - ・ 各教科における学習で身に付けた資質・能力を相互に関連付けた教科横断的な学習を行う時間としての意義
 - ・ 各教科等単独では取り組むことの難しい現代的な課題の学習を行う時間としての意義
 - ・ 高等学校教育において、より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の在り方について

教科等の特質に応じた「見方や考え方や資質・能力を

育むとともに、

教科横断的にそれらを総合・統合していく学び

生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、
合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った
姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、
幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方や資質・能力を、
徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、
幼児の得意なところや苦手なところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、
より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成
に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方や考え方や資質・能力を育む時期

遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた
「見方や考え方や資質・能力を育む学び

接続期

小学校教育

幼児教育

スタートカリキュラムのイメージ(案)

「見方や考え方や資質・能力をさらに成長させる
 中学年以降の学びへ」

国語 言葉で表現したり、理解したりすることを通して、ものの見方や考え方を広げたり、深めたりすること、また、表現したり理解したりすると、言葉の働きや仕組みを捉えること。	算数 事象を数理的に捉え、論理的に考察すること	生活 身近な自然事象や社会的な事象を、規則性や関係性といった視点で捉え、それらと比較、分類、関連付け、工夫、試行、予測することなどを通して、自分自身との関係にも気づきながら考察すること。	音楽 音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きを捉える視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、イメージや感情、生活や社会、文化等との関わりについて音楽活動を通して考えたりすること。	図工 感性や想像力等を働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、自分や他者との関わりや、生活、社会等との関係の中で、見たり創造的に考えたりすること。	体育 運動やスポーツについて、その意義や特性に着目しつつ楽しさや喜びを見出し、公正、協力、責任、参画、健康・安全といった視点を踏まえながら「する・みる・支える」等の豊かな関わり方について考察すること	道徳 様々な事象を道徳的価値との関わりで多面的・多角的に捉え、よりよい自己の生き方や在り方について考察すること	特活 集団や社会の形成者という視点から様々な諸問題を捉え、各教科等で培った見方や考え方を効果的に活用して、よりよい学級・学校生活や社会及び自己の実現に向けて考察し、実践すること。
---	-----------------------------------	---	--	---	---	---	---

※各教科等における「見方や考え方」は各WGにおいて検討中。

「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ

健康な心と体
自立心
協同性
道徳性・規範意識の芽生え
社会生活との関わり
思考力の芽生え
自然との関わり・生命尊重
数量・図形、文字等への関心・感覚
言葉による伝え合い
豊かな感性と表現

※各教科等の「見方・考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。
 また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したのではない。

生活科のイメージ（たたき台）

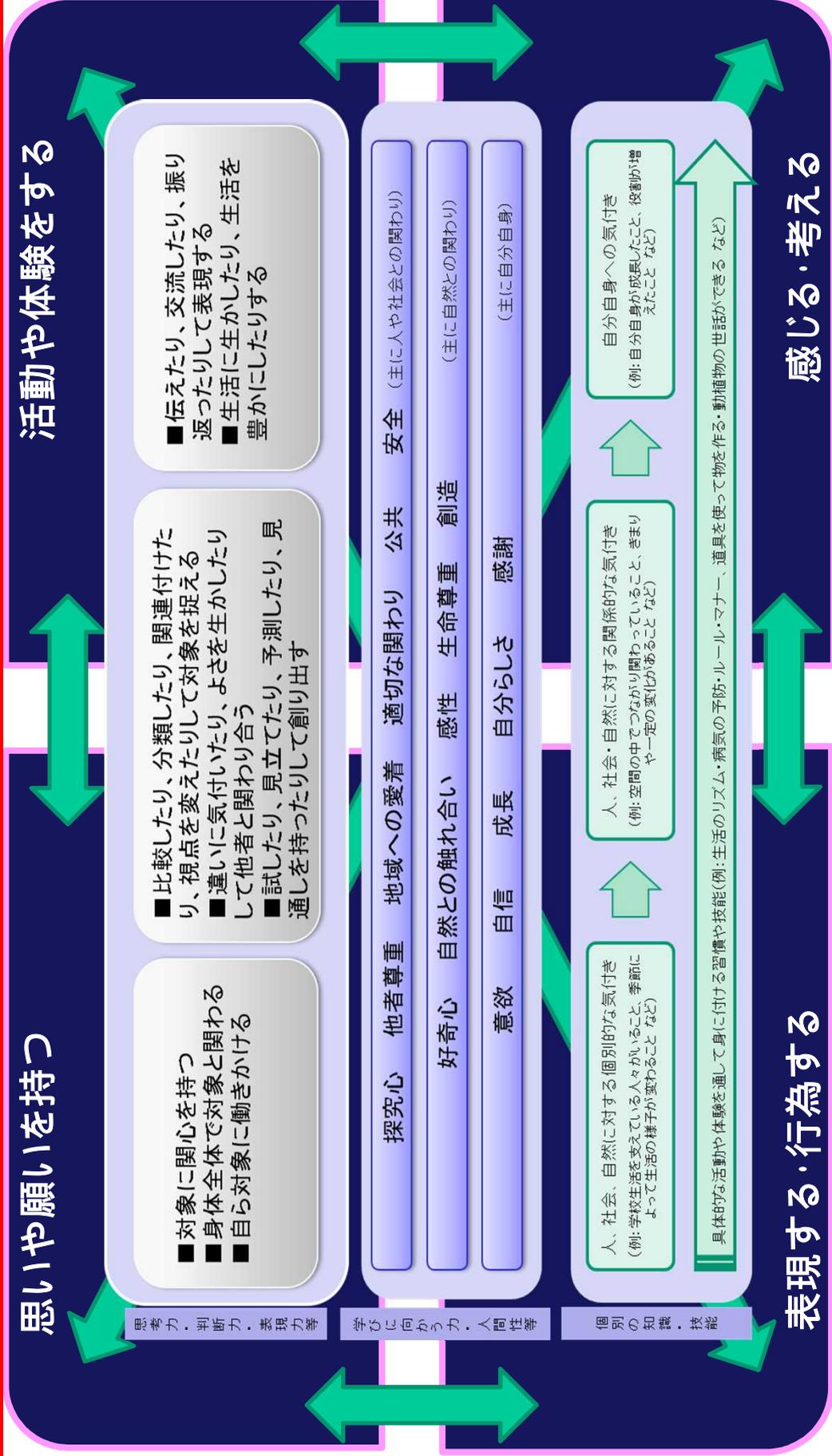
平成28年4月25日
生活・総合的な学習の時間WG
資料2-2

（社会、理科の見方や考え方については、社会・地理歴史・公民ワーキンググループ、理科ワーキンググループでそれぞれ検討中）

小学校中学年	<p>総合的な学習の時間</p> <p>社会</p> <p>社会的現象の見方や考え方</p> <p>位置や空間の広がり、時期や時間の経過、事象相互、立場相互の関係に着目して社会的現象を見出し、比較・分類したり総合したりして国民（人々の）生活と関連づけること</p> <p>理科</p> <p>自然の事物・現象についての見方や考え方</p> <p>自然の事物・現象について、主として量的・関係的、質的・実体的、多様性と共通性、時間的・空間的な視点で捉え、問題解決の過程を通して考えること</p>	小学校低学年	<p>生活科</p> <p><生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方(案)></p> <p>身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することなどを通して自分自身や自分の生活について考えること</p> <p>生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方を通して具体的な活動や体験を行うこと</p> <p>を通して、自立し生活を豊かにしていくために必要な資質・能力を育成する</p> <p>活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関係性に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付ける</p> <p>身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する</p> <p>身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、豊かな生活に向けて意欲や自信を持って行動する態度を育てる</p>	特別活動	<p>道徳</p> <p>体育</p> <p>図画工作</p> <p>音楽</p>
接続期	<p>生活科を中心としたスタートカリキュラムの中で、合科的、関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育つ姿が発揮できるような工夫を行いながら、短時間学習なども含めた工夫を行うことにより、幼児期に総合的に育まれた「見方や考え方」や資質・能力を、徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていく時期</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりとしながら、幼児の得意なところや更に伸ばしたいところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく「見方や考え方」や資質・能力を育む時期</p>	<p>「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ</p> <p>健康な心と体</p> <p>自立心</p> <p>協同性</p> <p>道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>社会生活との関わり</p> <p>思考力の芽生え</p> <p>自然との関わり・生命尊重</p> <p>数量・図形、文字等への関心・感覚</p> <p>言葉による伝え合い</p> <p>豊かな感性と表現</p>			
幼児教育	<p>遊びや生活の中で、幼児期の特性に応じた「見方や考え方」や資質・能力を育む学び</p> <p>各教科等の「見方や考え方」を踏まえて、関係性を示したものである。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目の濃淡は、小学校教育との関連が分かるように示したものであり、基本的にはすべての教科に關わっているが、濃い部分は特に意識的につながり考えていくことが求められるもの。幼児教育において小学校教育を前倒しで行うことを意図したわけではない。</p>	<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p>			

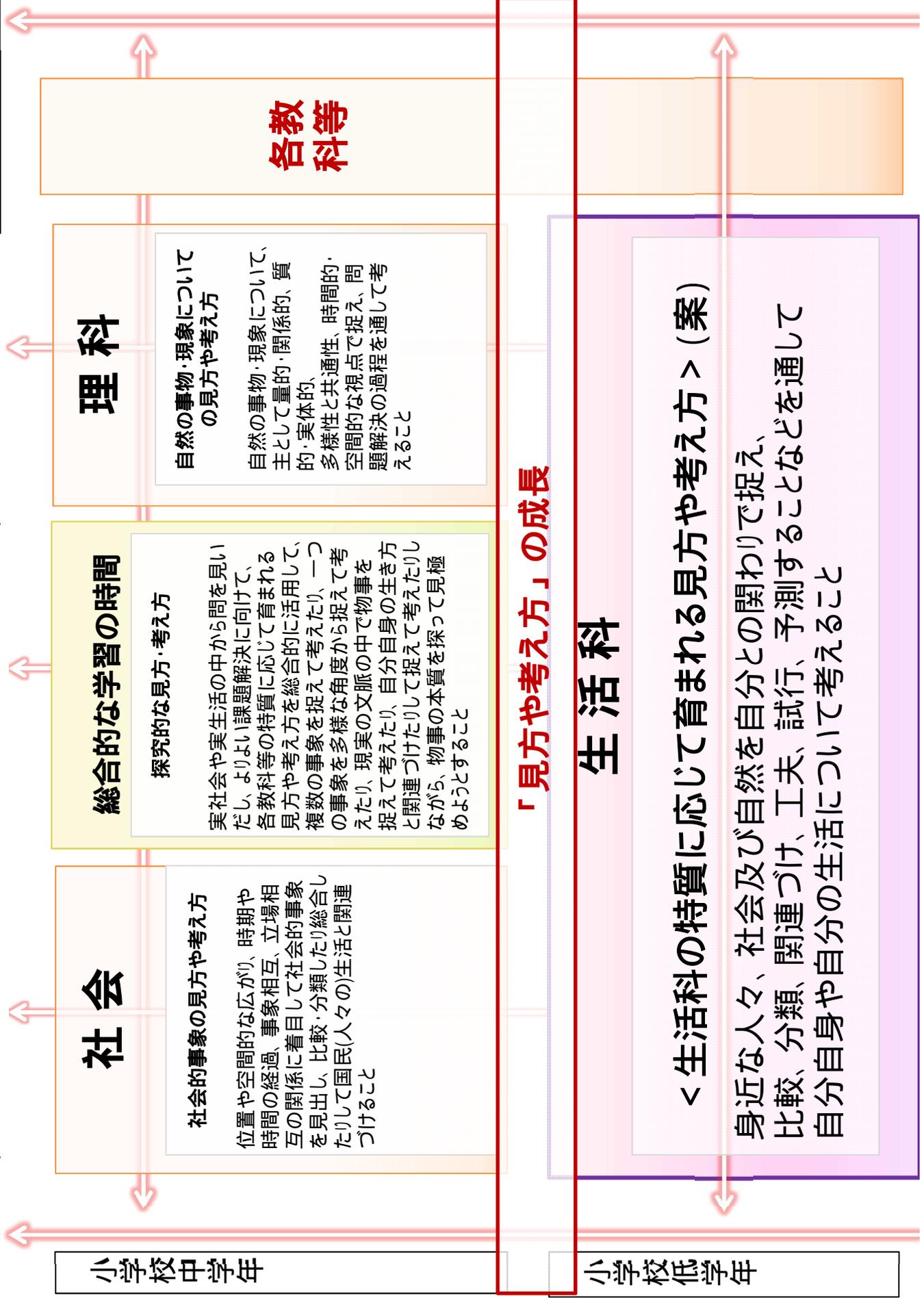
生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方(イメージ・案)

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連づけ、工夫、試行、予測することを通して自分自身や自分の生活について考えること



*生活科では上記の学習活動が一体的に行われ、体験と表現が繰り返される。(それぞれの資質・能力が、特定の活動にだけ対応しているわけではない)

（見方や考え方については、各ワーキンググループでそれぞれ検討中）



生活科の評価の観点(案)

生活科の評価の観点(案)

評価の観点	身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能	身近な環境や自分についての思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨 (イメージ)	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、関係性に気付いている 生活上必要な習慣や技能を身に付けている	生活科の特質に応じて育まれる見方や考え方を生かして体験や活動を行うことを通じて、自身や自分の生活について考え表現している	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、自立し生活を豊かにするよう自信をもって進んで行動しようとしている

(備考) 小学校低学年は、観点別の評価のみを行い、数値による評価は行わないこととしている。

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成22年5月初等中等教育局長通知)

(参考) 総則・評価特別部会で示された観点の例

観点(例) 具体的な観点の書きぶりは、各教科等の特質を踏まえて検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ(例) 具体的な記述については、各教科等の特質を踏まえて検討	知識 / 技能 (例) 理解している / の知識を身に付けている / の技能を身に付けることができる / の技能を身に付けている	思考・判断・表現 (例) 各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて、考えたり判断したり表現したりしている	主体的に学習に取り組む態度 (例) 主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている

理数探究（仮称）、情報科の新たな共通必修科目との関係を踏まえ、探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化すべきではないか。

【高等学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

総合的な時間の特質に応じて育まれる探究的な見方や考え方を、自ら課題を見付け、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協働（協同）して、よりよく課題を解決し自己の在り方生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

課題を探究することを通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解する

実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする

実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協働的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の在り方生き方に生かし、主体的に新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めさらに高次の課題に取り組み、その態度を育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【中学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用しながら探究的に学習することを通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協同（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する

実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする

実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協働的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に社会に参画し次の課題に取り組もうとする態度を育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用しながら探究的に学習することを通じて、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、多様な他者と協同（協働）して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えるために必要な資質・能力を育成する。

問題の解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解する

実社会や実生活の中から問いを見いだし、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする

実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協働的（協働的）に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、進んで地域・社会の活動に参加し次の課題に取り組もうとする態度を育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を、総合的な学習の時間で総合的に活用
総合的な学習の時間において各教科等の見方や考え方を活用して、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の見方や考え方が成長し
深い学びが実現

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通して
総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（素案）

平成28年3月24日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3 - 3

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (情意、態度等に関わるもの どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	<p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する知識 (及び概念)</p> <p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する技能 (探究することの意義や価値の理解)</p>	<p>探究することを通して身に付ける 課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<p>主体的に探究することの経験の蓄積を 信念や自信、自己肯定感につなげ、さら に高次の課題に取り組みようとする態度を 育てる。</p> <p>協同的に探究することの経験の蓄積を 自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、 よりよい社会の実現に努めようとする態 度を育てる。</p> <p>など</p>
中学校	<p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する知識 (及び概念)</p> <p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する技能 (探究的な学習のよさの理解)</p>	<p>探究的な学習を通して身に付ける 課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<p>主体的な探究活動の経験を自己の成長 と結び付け、次の課題へ積極的に取り組 もうとする態度を育てる。</p> <p>協同的な探究活動の経験を社会の形成 者としての自覚へとつなげ、積極的に社 会参画しようとする態度を育てる。</p> <p>など</p>
小学校	<p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する知識 (及び概念)</p> <p>課題について横断的・総合的な学習 や探究的な学習を通して獲得する技能 (探究的な学習のよさの理解)</p>	<p>探究的な学習を通して身に付ける 課題を解決する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理分析 ・まとめ表現 など 	<p>主体的な探究活動の経験を自信につな げ、次の課題へ進んで取り組みようとする 態度を育てる。</p> <p>協同的な探究活動の経験を実社会・実 生活への興味・関心へとつなげ、進んで 地域の活動に参加しようとする態度を育 てる。</p> <p>など</p>

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動を支える

探究のプロセスと育成すべき資質・能力の関係（案）

平成 28 年 4 月 25 日
生活・総合的な学習の時間WG
資料 3 - 4

小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	問題状況の中から課題を発見し設定する 解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる	手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を収集し分析する	問題状況における事実や関係を把握し理解する 多様な情報の中にある特徴を見付ける 課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える	相手や目的、意図に応じて分りやすいまとめ、表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性）	自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解）	探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化）	
探究活動と他者や社会	課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） 異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解） 探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献）			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識()の獲得

概念的知識()の形成

総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定められているため、知識の具体は各学校において異なる。

課題設定のスキル

情報収集のスキル

表現のスキル

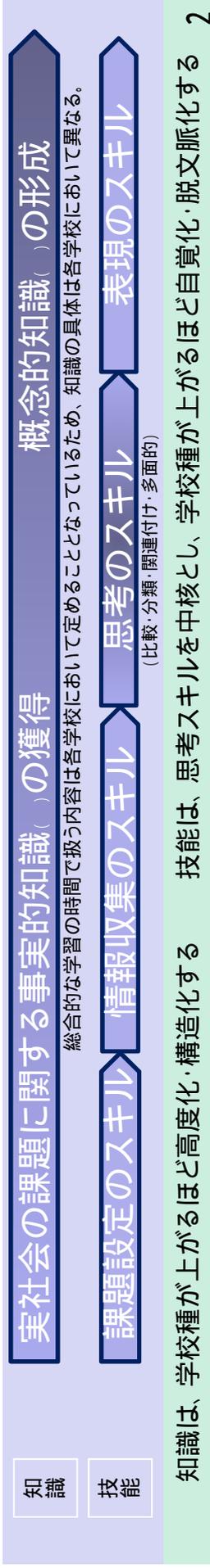
(比較・分類・関連付け)

知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

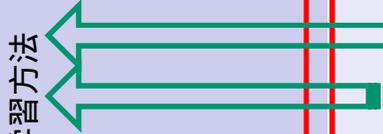
技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

中学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する	目的に応じて手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を収集し、多角的に分析する	複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ 視点を定めて多様な情報を分析する 課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える	相手や目的、意図に応じて論理的に表現する 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） 自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうとする（自己理解） 探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えることができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化）			
探究活動と他者や社会	互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） 異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） 探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとなつながら、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献）			



高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
<p>学習方法</p> 	<p>複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する 仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する</p>	<p>目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、実地的に分析する</p>	<p>複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する 視点を定めて多様な情報から帰納的、演えき的に考察する 事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える</p>	<p>相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する 学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす</p>
<p>探究活動と自分自身</p>	<p>課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） 自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもって探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解） 探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、自己肯定へとつなげ、更に高次の課題に取り組もうとする（内面化）</p>			
<p>探究活動と他者や社会</p>	<p>互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性） 異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解） 探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へとつながり、社会の形成者としてよりよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献）</p>			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識()の獲得

概念的知識()の形成
学ぶことの意義や価値の理解

課題設定のスキル

情報の収集のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的・構造的)

知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

発達の段階や教科・領域の特質に応じた 探究する力の育成イメージ(たたき台)

探究・・・物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営み

高等学校における総合的な学習の時間、課題研究、理数探究(仮称)

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を**総合的**に活用するとともに、自己の**在り方生き方**に照らし、自己のキャリア形成の方向性に関連づけながら見方や考え方を組み合わせて**統合**させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。

各教科

各教科の特質に応じて育まれる見方や考え方を活用しながら、各教科の本質的な理解等に向けて探究することのできる力を育成する。

各教科の本質的な理解等に向かうことが重要であることから、問いについては教師が効果的に設定しながら、学習者自身が知識等を構造化できるような学習過程を設定する場合と、学習者が問いを見出すことができるような学習過程を設定する場合とがある。

小・中学校の総合的な学習の時間

各教科等の特質に応じて育まれた見方や考え方を**総合的**に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成する。

探究的な学習が自己の**生き方**に関わるものであることに気付く。

上記のような力を育成する手立て(学習のプロセスや学習活動)としての「探究」が各教科等で行われている。(各教科等によって、学習のプロセスや学習活動は異なる。)

総合的な学習の時間の評価の観点(案)

総合的な学習の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述することとしている。

観点の設定の仕方については、現行では、以下の3つを例示。

(「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成22年5月初等中等教育局長通知))

学習指導要領に定める総合的な学習の時間の目標を踏まえた設定

(「よりよく問題を解決する資質や能力」「学び方やものの考え方」「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」「自己の生き方」)

「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育て

ようとす資質や能力等を踏まえて設定

教科との関連を明確にした設定

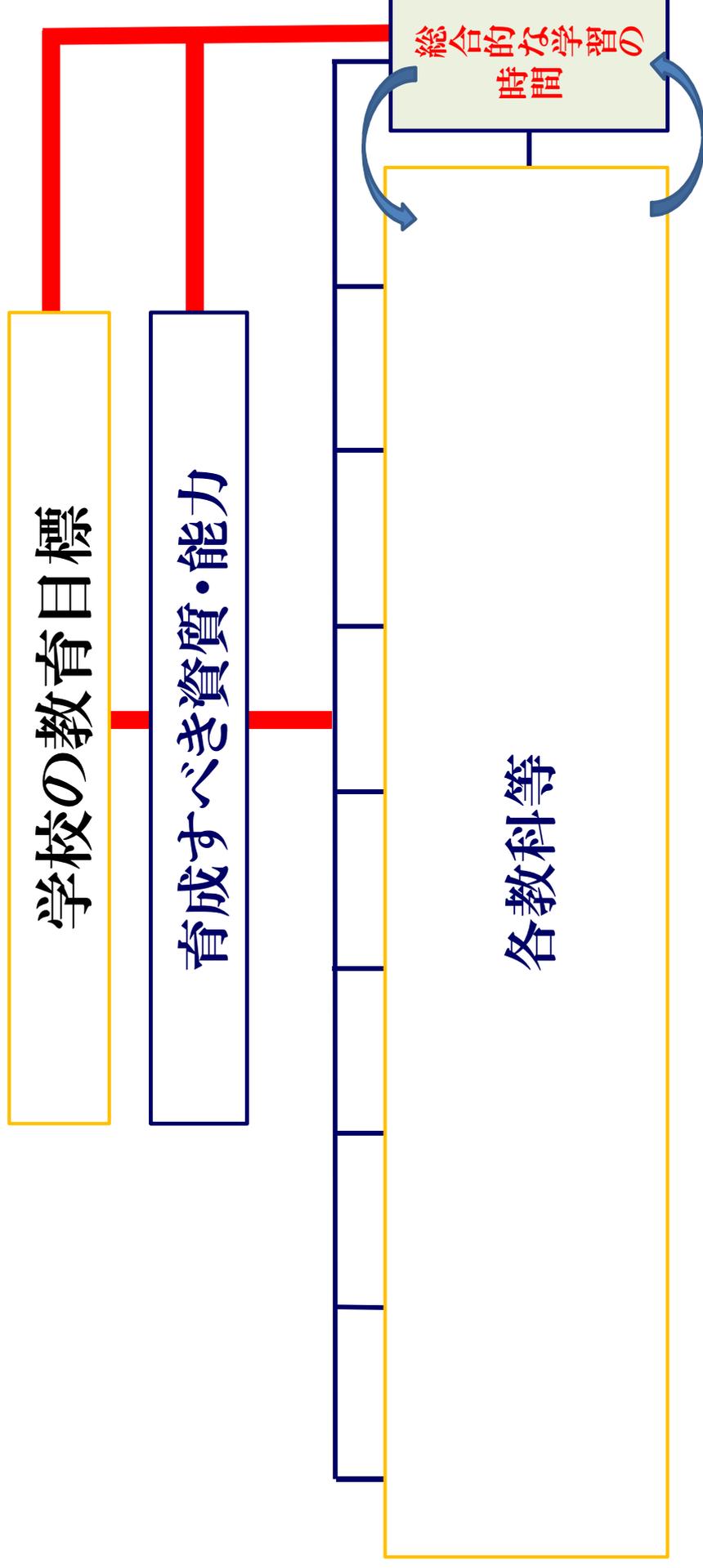
(総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」)

一般の全教科横断的な評価の観点の見直しの方向性を踏まえると、今後総合的な学習の時間の評価について、各学校において教科との関連を明確にした評価の観点を設定する場合には、以下のような趣旨による設定が適当ではないか。

評価の観点	高等学校	中学校	小学校
評価の趣旨 (イメージ)	<p>学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている 探究することの意義や価値を理解している</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している</p>
	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
	<p>学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている 探究的な学習のよさを理解している</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している</p>	<p>実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、主体的にさらに高次の課題に取り組もうとしている</p>
<p>学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている 探究的な学習のよさを理解している</p>	<p>実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方や考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している</p>	<p>実社会や実生活の中から積極的に問いを見出し、主体的・協同的(協働的)に課題の解決に取り組む、学習したことを自己の生き方に生かし、進んで次の課題に取り組もうとしている</p>	

カリキュラム・マネジメントのイメージ

カリキュラム・マネジメントの実現



※ 総合的な学習の時間の目標は、各学校が育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度などを表現したものになることが求められるため、学校の教育目標と直接的につながる。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】(教育課程企画特別部会論点整理より)

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。